

町立中標津農業高校 修学支援による人材育成 プロジェクト

事業期間 2019年3月29日～2022年3月31日
寄附金額目安 41,000千円（2020年度・2021年度累計）

事業の概要

根室管内唯一の農業高校である町立中標津農業高校へ進学したいと思える特色ある高校を目指し、入学者の確保と卒業生の地元就職数の向上に向けて、修学支援および修学環境改善を図るとともに、地元企業の即戦力となる人材育成を図る。

- ・ 地区外から登校する生徒への通学費用支援
- ・ 修学に必要な実習服、白衣等の購入費用支援
- ・ 老朽が進み耐震基準を満たさない体育館の改築
- ・ 海外酪農研修の実施
- ・ 農業クラブにおける研究活動への支援

中標津町の現状

- ・ 人口23,774人（2015国勢調査）
- ・ 乳用牛飼育数約4万頭
- ・ 商圏人口約6万人
- ・ 日本最東端の中標津空港を有する

中標津町の課題

- ・ 高齢化に伴う離農者の増加、後継者不足
- ・ 若者の町外流出
- ・ 深刻化する担い手不足

町立中標津農業高校

- ・ 北海道根室管内唯一の農業の単置高校
- ・ 乳用牛を飼育し、中標津町の基幹産業である酪農の後継者・関連産業従事者を育て、地域の産業を担う人材育成の一翼を担う
- ・ 生産、加工、流通の一連の基本を学び、就職・進学的基础学力をつける
- ・ 食育学習（幼稚園・義務教育学校）や町内会、J A、地元企業と連携を図り、農業を核とした教育、町づくりを实践し豊かな人間性と郷土愛を醸成する

■ 計根別食育学校の推進

「農業高校生として地域にできることをしたい」という生徒の意見から始まった食育活動「計根別食育学校」。地域の幼稚園、義務教育学校と連携を図り、農業高校の生徒が先生となって計根別地域の全ての子供たちに食農教育を展開している。幼稚園から中学部までの9年をかけ、学年にあわせて畑作や酪農、食品加工など幅広い分野から「農業」に向き合うことができる活動となっている。この活動をきっかけに農業に興味を持ち、農業高校へ進学する生徒も増えている。平成18年から活動を行ってきたことで、計根別地域には1度も農業に触れることなく成長した子どもはいない。

さらに平成30年度からは地域住民の「小さな地区に大きなイベントを」という声に応え、計根別地域全体をハロウィンカボチャで飾りつける「計根別景観UP大作戦」を新たに実施。かぼちゃの栽培に耕作が放棄された畑を使用するなど、農地の有効利用と地域の景観整備にもつながる活動となっている。



受賞暦

| | |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 平成28年度 ふるさとづくり大賞（総務省） | 団体表彰 |
| 29年食育白書（農林水産省） | 先進事例として取組みを掲載 |
| 平成30年度「わが村は美しくー北海道」運動第9回コンクール（国土交通省） | 優秀賞 |
| 令和元年度「わが村は美しくー北海道」運動第9回コンクール（国土交通省） | 大賞審査員特別賞 （前年度優秀賞13団体より選出） |

審査員講評

長期にわたる活動のため地域住民の理解が非常に高く、地元の人たちと強く結びついている。こうした将来の農山漁村を担う高校生が、幼稚園から義務教育学校まで途切れずに一貫して計画的にプログラムされた食育の取組みは、高く評価できる。

また、イベントのため、耕作放棄地にカボチャを植える取組みは、耕作放棄地の発生を予防するとともに、景観形成にも役立っている。

計根別食育学校で学んだ子どもたちが農業に興味を持ち、教える側の高校生として関わるなど地域に好循環が生まれている点が掲載の理由。

■ 農業クラブ活動の支援

地域課題を題材に取組み、地元食材を使用した商品開発や高校生が製造した商品の販売・配布を行うほか、町の豊かな景観の維持・改善を目指したプロジェクトなどを実践している。平成30年には全道実績発表大会で2連覇を達成。過去4年で3度の制覇は大会史上初となっている。

動物活用研究班

JGAP認証取得に向け、GAPチャレンジシステムに挑戦。平成30年には高校としては全国初、GAPチャレンジシステムの確認農場に認定された。令和元年には日本GAP協会主催の「GAP普及大賞2019」で最高賞の大賞に輝いた。高校が大賞を取るの**は初**。畜産物の生産工程に必要な管理点113項目を文章や動画などに換え、スマートフォンを活用し「見える化」したことが評価された。



農産加工研究班

小学生とともに中標津の魅力を発見する、地域を教材にしたプロジェクト、なかのうスタイルに取り組む。

令和元年、No Maps釧路・根室第1回高校生ビジネスコンペティションで、中標津の農産品で地元の小中学生と商品開発に取り組むなかのうスタイルの活動を発表し、**最優秀賞**を獲得。小麦やジャガイモを使った「いももちパン」や「じゃがポタ麺」を開発し、学校祭で提供したことを伝えた。



| | |
|-----------|---|
| 農産加工研究班 | 令和元年、SDGs まちづくりアイデアコンテスト 優秀賞 |
| 植物活用研究班 | 町の豊かな景観の維持・改善を目指し花を通じたプロジェクトを実施。花フェスタ2018札幌奨励賞。 |
| マネジメント研究班 | カボチャランタンプロジェクトを実施。令和元年、No Maps 釧路・根室第1回高校生ビジネスコンペティション 優秀賞。 |

■ その他の取組み 海外研修などの実施

プロジェクト目標2

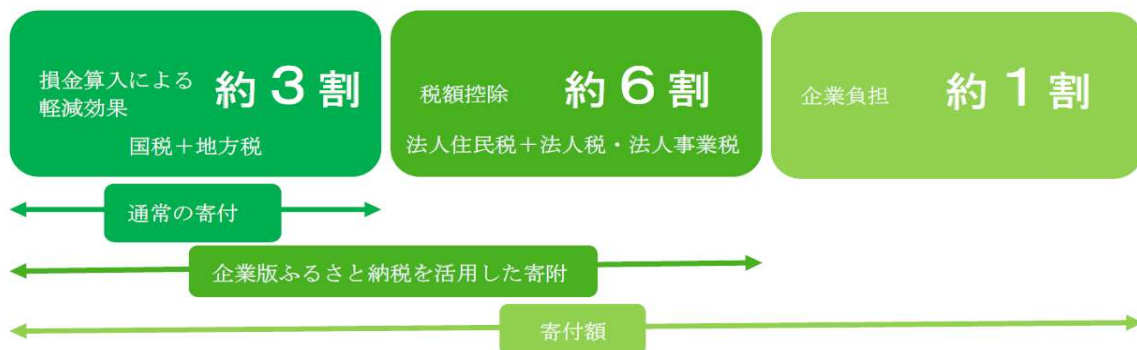
安全・安心な学習環境の整備

- 老朽が進み耐震基準を満たさない現体育館を改築し、生徒の学習環境改善を図ります。
- 生徒や保護者に対し各種支援を行い負担軽減を図ります。
 - 地区外から登校する生徒への通学費用支援
 - 修学に必要な実習服、白衣等の購入費用支援

■ 企業版ふるさと納税について

地方公共団体が実施する地方創生の取組みに企業が寄附を通じて応援した場合に、税制上の優遇が受けられるしくみです。（令和6年度までの特例措置）

国が認定した地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、寄附額の6割に相当する額の税額控除の特例措置が適用されます。現行の地方公共団体に対する法人の寄附に係る損金算入措置による軽減効果（約3割）と合わせて、寄附額の約9割に相当する額が軽減されます。



■ 企業版ふるさと納税のながれ



■ 企業版ふるさと納税をするときの注意

- 地方公共団体が企業に対して、寄附を行うことの代償として経済的な利益を供与することは禁止されています。
- 企業版ふるさと納税の対象となる企業は、青色申告書を提出している法人です。
- 本社が所在する地方公共団体への寄附については、本税制の対象となりません。
- 1回当たり10万円以上の寄附が対象となります。
- 謝礼品の贈呈はできません。感謝状の贈呈のほか、企業名をホームページ・広報紙などで公表します。



【連絡先】

088-2682

北海道標津郡中標津町計根別南2条西1

丁目 北海道中標津農業高等学校

T E L 0153-78-2053

F A X 0153-78-2465

Email k-nougyou@nakashibetsu.jp